

松蔭 校長室だより

2025年9月1日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井宣光

あなたがたは以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて光となっています。光の子として歩みなさい。

(エフェソの信徒への手紙 5:8)

2学期始業式のメッセージ

7~8月の平均気温が例年より2~3度高かったそうです。例年9月に入りますと、昼間とはかく朝夕の風に心なしか「秋」の気配を感じ始めるものですが、今年はそれが微塵もありません。「夏」が続きますが、健康に留意しながら、夏休みモードから通常の学校生活モードへと上手に切り替えてほしいものです。本日、中高合同の始業式を行い、生徒に皆さんに次のメッセージを届けました。

夏休みをどのように過ごされたでしょうか？ 異常な暑さで、兵庫県でも観測史上の最高気温が記録されました。まだまだ暑い毎日が続くようです。体調を崩さずに新学期の学習をスタートさせましょう。今日は、休み中の出来事から私が感じたこと話したいと思います。

今年は「節目の年」という言い方がよくされています。8月15日は終戦から80年が経った日です。その直前の8月6日は広島原爆の日、9日は長崎原爆の日でした。皆さんのなかには、広島を訪問して平和礼拝に参加した松蔭生もいますが、この日を現地でどのような気持ちで迎えられるでしょうか。私自身もお盆休みを利用して広島を訪問し、原爆ドームや平和記念資料館を見学しました。平和公園内にある慰霊碑の前では世界各国の人々が手を合わせ、黙とうする姿がありました。皆さんもぜひ機会をつくり、実際に広島や長崎を訪問し、現地で戦争の実情について考える機会を持っていただきたいと思います。

さて、夏休み中の8月12日、ニュースで見聞きした人もおられるでしょうか、ちょうど40年前のこの日に日航機墜落事故が起こりました。満員の乗員・乗客を乗せた旅客機が、群馬県の御巢鷹山に墜落し、520名の方が亡くなりました。その犠牲者数は、世界の航空機事故史上で今なお最も多数の重大事故です。そのなかのお一人が松蔭の先生でした。保健体育科の田中愛子先生は当時26歳でした。田中先生は学生時代にはソフトテニスに打ち込み、インターハイにも出場された経歴があります。大学卒業後、松蔭の体育の先生になり、授業ではダンスも教えていましたので、より良い授業にしようと考えられたので、東京でのダンス研修会に参加した後の帰路にこの飛行機に搭乗して事故に遭い亡くなりました。

事故から10年程経った頃、松蔭中高の人権学習の特別授業の講師として田中先生のお父様をお招きすることになり、当時の皆さんの先輩の松蔭生がこの講堂で講演を聞きました。娘は体育教師だから、たとえ山奥の墜落現場でも、傷があれば自分で止血し、夜露を飲んででも必ず生きている。お父様はそう信じて現地に駆け付けられました。しかし、墜落現場は想像を絶する悲惨な状況で、ようやく娘の遺体を確認できたのは墜落から1週間が経っていたということでした。田中先生は半年後の結婚が決まっていたそうです。茶毘にふして火葬するときにはウエディングドレスを着せ、手にはテニスボールを握らせたそうです。その後、お父様が遺品を整理している時、一冊の大学ノートを見つけました。そのなか一枚の便せんが挟まれていました。生前、先生は次のように書き記しておられました。

「人の命には限りがある。だから自分の思うように生きたい。

人は軽く十年先、二十年先を口にするけど、

そのときを大切にしなければ。

今、光っていたい」

お父様は講演のなかで、「今、光っていたい」という言葉を繰り返しておっしゃいました。あらためて私はその言葉の意味を考えて

います。先生の記された「光っていたい」というのは、どのように生きることなのだろうか。人はどうすれば「光る」ことができるのだろうか。

聖書には「光」に関する言葉が数多く記されています。先ほど読んでいただいた「光の子として歩みなさい」という一節や「あなたがたは世の光です」という言葉を知っている人もいるでしょう。事故から数週間後のお葬式が終わった後も、各地からテニス仲間や友人たちが田中先生の自宅を訪ねてきてくれたそうです。これら聖書の言葉を先生がご存知だったのかどうか分かりませんが、いつも周りの人に笑顔で接して、励ましや慰めの言葉をそっとかけたり、そばで見守ったりしてういた姿があったことでしょう。「今、光っていたい」と願いながら、人生の一瞬一瞬を大切に、光輝きながら周囲をあたたく照らしておられた先生の人柄や生き方を思い浮かべます。

2学期は3つの学期のなかで最も長い学期で、行事もたくさんあります。特に高3の皆さんは進路決定の本番を迎えます。夏休み中の生活スタイルから元のリズムの学校生活に戻ることは、ストレスになることも想像します。

困ったことや悩み事、相談があれば、どうぞ信頼できる周囲の人に声をかけてみてください。私でもかまいませんので校長室に声をかけてください。皆さん一人ひとりかけがえのない「光の子」であり「世の光」です。今学期もどうぞ自分も他者も大切にして、「光（ひかり）」として日々を過ごされるよう祈ります。（2025年9月1日 中学校・高等学校始業式 講話より）

夏休みが明けて「自分の命を守る」ことを第一に

始業式後、生徒部長の先生から、新学期の生活面で留意すべき点について説明がありました。伝統の制服を誇りを持って着用することや、挨拶は相手への思い遣りの第一歩であるとの話のほか、8月20日に神戸市中央区で発生した事件を受け、登下校中には、自分の命の安全を第一に心がけるよう注意がありました。特に一人で歩くときには、周囲の状況に気を配り、不審者に気付くためイヤホンや歩きスマホをしないこと。万一、身の危険を感じるような場合には、躊躇なく通報するよう伝えました。また、異常な高温が続くことが予想されていることから、熱中症は後遺症が残ったり、命に関わったりすることもあり、その予防が最も重要だと伝えてあります。ご家庭におかれましても、生徒部長からの注意などに触れながら、「自分の命を守る」ことについてお話しいただく機会をもっていただくようお願いいたします。

心理面では、長期休業明けの時期は不安定な状態になることが多いようです。ご家庭でお気づきになった点や心配事などございましたら、ご遠慮なく学校までご相談ください。相談室も平日は毎日開室しています。また、次の文部科学省ホームページ等の情報を必要に応じてご活用ください。

○文部科学省ホームページより～不安や悩みがあったら話してみよう～

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/mext_00003.html

○子供のSOSダイヤル等の相談窓口

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm

○相談窓口PR動画「君は君のままでいい」

<https://youtu.be/CiZTk8vB26I>